

## 七. 環濠集落「島田」は「島堂」ともよばれていた

「島田弥生遺跡」は弥生時代から室町時代に至る複合遺跡ですが、この地が環濠集落であったことは昭和三十五年の大阪府教育委員会の発掘により明らかにされています。その遺跡の案内板の横に岸岡治一郎先生の書になる「天王山勸進寺観音堂霊跡」という石碑（写真）がたっています。

島田は先の島田弥生遺跡の項にも記述したとおり、古くは猪名の入江の中で、島状になった微高地であったと考えられますが、この地に一町四方もある勸進寺が建てられ、この寺の中心に観音堂が建てられていましたので、この地を「島堂」と呼んでいました。この勸進寺には「弁慶伝説」「観音伝説」が残っています。この勸進寺には釣鐘がありましたが、寺が廃絶した後、この釣鐘は現在、尼崎寺町の如来院にあります。



「天王山勸進寺観音堂霊跡」石碑